

**横浜市立 鶴ヶ峯中学校 学校評価報告書 (令和元～3年度)**

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	誰もが安心して参加できるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業設計を行います。具体的には、グループワークやプレゼンテーションなど、生徒が主体的に学び合えるアクティブラーニングを中心に授業展開を行い、あらゆる生徒が積極的に授業参加できる工夫をしていきます。	学力向上アクションプランに記載した各教科の成果の様子から、概ねUD設計の授業づくりはできているというのが職員自己評価でした。一方、UD設計の授業ができているのか客観的な視点で評価することが今後の課題です。	B
豊かな心	道徳では歴史的事実や人の想いを「自分ごと」としてとらえ、人権講演会では国際理解・平和学習・障害者理解について学び、特に平和学習は修学旅行が最大成果となります。また、日常の中で誰もが主人公になる場面の設定や、仲間・職員・地域との関わりの中で自尊感情を高めています。	道徳の授業では、話し合いを通して、自分の考えを深める授業展開の工夫をしました。人権作文に全校生徒が取り組み、人権について考える機会を作りました。パラリンピアンによる人権講演会では夢実現の努力する素晴らしさについて多くの共感を得ました。	B
健やかな体	心身ともに健康で、望ましい生活習慣が身につくよう、保健室からのたよりや掲示物、生徒委員会を通じて発信します。新体力テストの結果を基に生徒一人一人に体力向上に向けた目標を持たせます。保健体育の準備運動メニューを継続的に取り入れ体力向上に努めます。	・学校保健委員会では、アンケートを実施して睡眠の実態を把握し、睡眠と体と心の関係について学ぶことで、睡眠の大切さを知ることができました。 ・体育の授業の準備運動を継続的に実施し、体力向上・技能向上に繋がることができました。	B
児童生徒指導	指導体制を統一するために年度当初に共通理解研修を設定し、SNSの使用法や発達障害などをテーマに研修を積み重ねていきます。教育相談を年間計画に設定するだけでなく、日常的に生徒との会話を増やし、関係を作ることによって生徒が抱える諸問題の予防・早期発見に努めます。	年3回の職員研修を通して、意識向上と共通理解研修が着実に高まりました。職員間の連絡をより密にして連携を取っていく事に努めます。教育相談週間や日常の活動の中で時間を工夫して面談活動を行い、生徒との関係づくりをスムーズに進めることができました。	B
特別支援教育	はまっ子教室・学習相談会を定期的開催することで、学習の遅れやつまづきを感じている生徒への支援体制を整えます。また、取り出し授業や保健相談室における支援、個別支援級との交流など、生徒一人ひとりの実態に応じた支援計画・職員体制を整え、職員間連携を強化していきます。	はまっ子教室・学習相談会ともに定期的開催できましたが、会議との重複や生徒の部活動参加との兼ね合いには課題が残りました。教室にいけないう生徒への支援として、ステップアップルームも開設しました。人的資源により運営が変化してしまふ点は課題です。	B
学びの場の連携	小中一貫教育を一層推進するとともに、幼児教育から高等教育までを視野に入れ、目指す子どもの姿や育む力を共有し、前の段階での教育が次の段階で生かされるよう、教育課程の円滑な接続を図ります。また、社会的自立に向けて、発達の段階に応じたキャリア教育を進めていきます。	小中の連携については、児童の小中ギャップの解消に向けて児童生徒交流日において、授業見学、部活動体験を実施した。教職員間では中学校での授業を見学する研究会を実施し、目指す子どもの姿や育む力を共有するとともに、つながりのある教育を目指した。	B
安全管理	防災教室を実施することで、起こりうる危険や自然災害、防災に対する理解を深め、自助や共助の視点で自ら行動しようとする姿勢や意識を育みます。避難訓練などを通して、災害時において自らの安全を確保するための行動を迅速にとることができるような力を育みます。	・防災教室では、火災時の避難の仕方や行動のとり方、家庭における備えについて学び、防災への意識向上に繋がりました。 ・避難訓練では、自らの安全確保のための行動を確認し、素早く非難することができました。	B
地域連携	地域コーディネーターとの連携を深め、地域行事への生徒の参加を促進するとともに、特別支援や授業等に地域の支援を得られる取組を進めます。学校運営協議会を立ち上げ、保護者・地域の声をしっかり受け止められるようにします。関係諸機関と連携を図り、生徒の健全育成に努めます。	地域行事への生徒参加や、地域の方々に学校周辺の清掃活動をしていただくなど、地域コーディネーターと連携した具体的な取組を始めることができました。交通安全教室や薬物乱用防止教室など警察や保護司との連携を中心とした教育講演会を行いました。	B
いじめへの対応	いじめ事案及びいじめの疑いがある事案について定期的に情報交換と対応方針の検討を行い、組織的な対応でいじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めます。関係諸機関と連携して講演会等を実施し、いじめ防止に関する正しい知識を身につけるとともにモラルの醸成に努めます。	生徒指導情報交換と学年連絡会を隔週で実施し、正確な情報共有とともに対応の検討をすることで、早期解決や継続的な見守りにつながった。スマホやケータイ教室や非行防止教室で、いじめに係る講演を行うことで、いじめ防止に対する意識を高めることができました。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	メンティーチームとメンターチームとの会合を定期的に実施します。主幹教諭をはじめとしたミドルリーダーが中心となり、組織的な学校運営を行うことができる体制をつくります。留守番電話の本格的運用や効率的な業務の推進を図ると共に、保護者や地域との協働による学校運営を通して働き方改革を進めます。	メンターチームの取組として、主幹教諭と経験年数の浅い教員による勉強会を行うなど、組織的に人材育成を推進することができました。長期休業中の閉庁期間を積極的に設定するほか、地域行事への生徒参加について地域コーディネーターとの協力を求めるなど、働き方負担減に向けて取り組みました。	B
ブロック内評価後の気付き	「授業力向上」を重点化し、中学校の授業参観と研究協議を行いました。実際に授業を参観することにより、小中9年間を見通した指導を意識することができました。 ・小中双方の負担が大きくなりすぎないように、小学6年生の中学校訪問を一日にまとめました。中学校の授業や合唱練習の見学、生徒会役員による中学校生活の紹介、部活動体験などを行いました。 ・9年間で育てたい児童生徒の「資質・能力」を、各学校の各教科・領域の年間指導計画の中に割り当てていく作業を行いました。「資質・能力」ベースのカリキュラムとなるようにより具体的な計画を作成し	・今年度は感染症対策により多くの取組や行事が中止になりました。次年度の活動計画・カリマネ会議については、メールや電話にて、教務主任間で調整を行いました。 ・多くの活動が行えない中、改めてカリキュラム・マネジメントの重要性を感じました。感染症対策を施しながらも、それぞれの学校がこれまで作成したカリキュラムを基に教育活動を行うことが重要で、今後も9年間で育てたい児童生徒の資質・能力をベースとした教育活動を大切にしていきたいと思ひます。	ブロック内評価後の気付き
学校関係者評価	・地域連携については、学校家庭地域連携事業実行委員会などにより多くの教職員が参加することにより、さらなる連携が図れるのではないのでしょうか。また、中学生が地域行事に参加することによって地域は元気をもたらしているの、さらなる連携を図ってまいります。 ・生徒を取り巻く環境が変化する中で、ゲームや動画再生サイトなどに依存してしまうケースが多くなっており、学力の低下に影響しているのではないのでしょうか。 ・特別支援教育については、現状できる範囲で持続可能な取組をしてもらいたいと思ひます。	感染症対策として、学校関係者評価委員に学校の現状を書面にてお伝えしました。	学校関係者評価
中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて歩みだしました。各分野で設定した具体的取組に対し、おおむね目標達成することができました。今年度の取組をさらに充実できるような努力していきます。 ・授業力向上については、アクティブラーニングやユニバーサルデザインを推進し、「分かる授業」を全職員で目指しました。生徒を取り巻く環境をふまえ、さらに学力向上に向けた取り組みが必要です。 ・地域連携では、地域の方から高い評価をいただきました。今後も引き続き継続するとともに、職員の	感染症対策が求められる中、教育活動には大きな制約がかかる一年でした。実施できなかった行事も多く、特に小中ブロックの連携や保護者や地域の方が来校する機会が大きく損なわれました。このような状況だからこそ、これまで当然に行っていた教育活動を根本から見直す機会となりました。より質の高いものを目指すきっかけとなりました。学習活動については、休校中にすぎず平常時からICT活用の重要性が高まっています。授業の中でどのようにICTを活用して生徒の資質・能力を向上させるのか、これからの大きな課題となっています。	中期取組目標振り返り

重点取組分野	令和2年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	生徒が主体的に学び合えるアクティブラーニングを取り入れた授業展開を行うことで、授業のユニバーサルデザイン化をより一層推進します。その際、公開授業、研究授業等による教職員の相互評価を通して、授業力向上のための手立て構築に努めます。	学ぶことを明確にして見通しを示すことで焦点化したり、ICTを活用するなど視覚的な情報を提示したりしました。その中で生徒は能動的な表現活動や体験的な活動を行い、課題解決に必要な知識技能を身につけることができ、授業力向上を実感できました。	B
豊かな心	道徳では、対話的な学習を通して、道徳的価値を多角的多面的に深く捉える時間とします。人権作文に全校で取り組むと共に「平和学習」をテーマに人権講演会を行い、人権に対する意識を高めます。学校行事や学習場面で、誰もが主人公になる場面設定をし、自尊感情を育てていきます。	感染症に関わる一斉道徳では、差別・偏見を生む心にとどめ行動するの考えを、人権感覚向上の啓発を図ることができました。また「平和学習」をテーマとした人権講演会は、生徒自身の心の中で育む平和や命の大切さに改めて気づく好機となりました。	B
健やかな体	心身の健康のため、規則正しい生活習慣が身につくよう、便りや掲示物、生徒委員会の活動を通じて発信します。一人ひとりの体力向上に向けて、新体力テストの結果を基に、目標を持たせます。授業上の準備運動を継続的に取り組み、体力向上に努めます。	感染症予防について、便りや呼びかけ、掲示物にて発信しました。学校保健委員会では、朝食についての実態を把握し、朝食の役割やバランスについて学び、自分の食生活を振り返ることができました。体育の授業前の準備運動は継続して取り組むことができました。	B
児童生徒指導	校内の指導基準を統一するため共通理解研修を行い、またSNSや発達障害などをテーマに研修を積み重ねていきます。教育相談を年間計画に設定するだけでなく、日常的に生徒との会話を工夫して面談活動を行い、生徒との関係づくりをスムーズに進めることができました。	生活の共通理解・生徒指導理解・発達障害と生活指導の職員研修を通して、意識向上と共通理解ができました。職員・学年間の連絡連携をより密に取っていく事に努めます。教育相談週間や日常の中で生徒との関係づくり、寄り添った指導に努めることができました。	B
特別支援教育	学習相談会を定期的開催することで、学習の遅れやつまづきを感じている生徒への支援体制を整えます。また、取り出し授業や保健相談室における支援、個別支援級との交流など、生徒一人ひとりの実態に応じた指導計画・支援計画を策定し、別室登校を希望する生徒にSURを策定し支援を行います。	学習相談会を開催し学習の遅れを感じている生徒への支援体制や、取り出しの授業を行う特別支援教室を開設し職員体制を整えました。生徒一人ひとりの実態に応じた指導計画・支援計画を策定し、別室登校を希望する生徒にSURを策定し支援を行いました。	B
学びの場の連携	小中一貫ブロックにおいて、目指す子どもの姿や育む力を共有し、前の段階での教育が次の段階で生かされるよう、教育課程等の円滑な接続を図ります。また、キャリアパスポートを実施し、発達の段階に応じたキャリア教育を進めていきます。	小中の連携事業が実施できず、目指す子どもの姿や育む力の共有を基に目標とした教育課程の円滑な接続は実践が難しくなりましたが、キャリアパスポートについては、手探りながらも発達段階を意識し実践しました。	C
安全管理	防災教室を実施し、風水害についての理解を深めます。危険を予測し、自然災害に備える力を育みます。避難訓練などを通して、災害時における自らの安全確保のために、自らが考え、迅速に行動できる力を育みます。	避難訓練では、感染症対策を踏まえて、自らの安全確保のために避難経路や動きの確認を行うことができました。総合防災訓練では、大規模地震が起きたことを想定した引き取りについて、ワークシートを利用してイメージすることができました。	B
地域連携	学校と地域をつなぐ取組を継続するとともに、より多くの生徒が関わることができるように工夫します。学校運営協議会の立ち上げに向けて引き続き取り組み、保護者・地域の声をしっかり受け止められるようにします。生徒の健全育成に向けて、関係諸機関との連携強化に努めます。	感染症対策により、地域行事への参加や警察と連携した各種防止教室、運営委員会等の会合を行うことがほとんどできなくなりましたが、書面による委員会開催や、学校便りを通して、地域の関係諸機関の取組や学校の取組を集約して情報共有することができました。	C
いじめへの対応	隔週で実施するいじめ防止対策委員会において、情報交換と対応方針の検討をすることで、引き続きいじめの未然防止、早期発見・解決に努めます。いじめを見逃さないために、生活アンケートや教育相談を通してのいじめ早期発見や、職員が生徒からの届かないことがないような見守り体制を構築できました。	いじめ防止対策委員会や、いじめの状況に応じて委員会を開催し、情報共有と対応について職員連携をとることができました。生徒アンケートや教育相談を通してのいじめ早期発見や、職員が生徒からの届かないことがないような見守り体制を構築できました。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	ミドルリーダーを核としたメンターチームの取組を組織的に行う他、業務の様々な場面でOJTを意識するなど、経験の浅い職員の育成に努めます。学校地域コーディネーターとの連携によりボランティアを活用するなど、保護者や地域との協働による学校運営を通して働き方改革を進めます。	定期的にメンターチーム研修を実施することで日常的OJTをさらに意識することができ、組織として人材育成に努めることができました。長期休業中の閉庁期間を積極的に設定するほか、情報処理システムの導入による事務処理の省力化にむけて検討を進めるなど、働き方改革を推進することができました。	B
ブロック内評価後の気付き	・今年度は感染症対策により多くの取組や行事が中止になりました。次年度の活動計画・カリマネ会議については、メールや電話にて、教務主任間で調整を行いました。 ・多くの活動が行えない中、改めてカリキュラム・マネジメントの重要性を感じました。感染症対策を施しながらも、それぞれの学校がこれまで作成したカリキュラムを基に教育活動を行うことが重要で、今後も9年間で育てたい児童生徒の資質・能力をベースとした教育活動を大切にしていきたいと思ひます。	今年度も感染症対策により多くの取組や行事が中止になりました。次年度の活動計画については、メールや電話にて、教務主任間で調整を行いました。小中交流事業の多くが中止されることで児童が中学校生活について知る機会が少なく、いわゆる「中1ギャップ」が大きくなり懸念されるところです。新入生が安心して中学校での生活を送れるようより細やかな配慮が必要であると感ずます。「9年間で育てたい児童生徒の資質・能力」を更に意識し、各教科・領域における具体的な育成の場面や児童生徒の姿を、次年度以降小中と共有していきたいと思ひます。	ブロック内評価後の気付き
学校関係者評価	・地域連携については、学校家庭地域連携事業実行委員会などにより多くの教職員が参加することにより、さらなる連携が図れるのではないのでしょうか。また、中学生が地域行事に参加することによって地域は元気をもたらしているの、さらなる連携を図ってまいります。 ・生徒を取り巻く環境が変化する中で、ゲームや動画再生サイトなどに依存してしまうケースが多くなっており、学力の低下に影響しているのではないのでしょうか。 ・特別支援教育については、現状できる範囲で持続可能な取組をしてもらいたいと思ひます。	6月に学校運営協議会が発足しました。2月の協議会では学校の現状について、書面にてお伝えしました。	学校関係者評価
中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて歩みだしました。各分野で設定した具体的取組に対し、おおむね目標達成することができました。今年度の取組をさらに充実できるような努力していきます。 ・授業力向上については、アクティブラーニングやユニバーサルデザインを推進し、「分かる授業」を全職員で目指しました。生徒を取り巻く環境をふまえ、さらに学力向上に向けた取り組みが必要です。 ・地域連携では、地域の方から高い評価をいただきました。今後も引き続き継続するとともに、職員の	感染症対策により、生徒の学校での取組を地域や家庭が知る機会が大幅に縮小され、学校として生徒・保護者や地域により深く寄り添った対応が求められる1年となりました。教育課程の運営においては、新しい学習観・評価観を研修等で共有し、実践に結びつけました。今後も実践の見直し、授業力が向上するための不断の努力が求められます。また、ICT機器を活用した授業への取り組みも徐々に進んでいます。今後は本来の目的である各学習活動の目標達成のためにICTをどう有効活用していくかなど、各職員のICT活用能力向上と同時に指導方法の見直しも必要となります。	中期取組目標振り返り

重点取組分野	令和3年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	各教科で育む新しい時代に求められる資質・能力を明確化し、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から、授業づくりの質的改善を図ります。公開授業、研究授業等による教職員の相互評価を行うことで、授業力向上にも努めます。	確かな学力を育成するために、各教科で年間指導計画を見直し、教科等の本質に迫る「考える授業」に向けた授業改善を行うとともに、教科等の特質に応じた言語活動の充実を図りました。研究授業は、小中連携事業が中止となるなど実施が難しい面もありました。	B
豊かな心	道徳では、対話的な学習を通して、道徳的価値を多角的多面的に深く捉える時間とします。人権作文に全校で取り組むと共に「国際理解」をテーマに人権講演会を行い、人権に対する意識を高めます。学校行事や学習場面で、誰もが主人公になる場面設定をし、自尊感情を育てていきます。	道徳では、教科書を中心に対話的な学習を通して考えを深めたり、ローテーション道徳等を通して多面的・多角的に考えたりする等、授業展開を工夫しました。「国際理解」に関する人権講演会では、相手を理解していくことの大切さに気付く好機となりました。	B
健やかな体	生徒委員会や学校保健委員会の取り組み、便りや掲示物などを通して、規則正しい生活習慣や感染症予防を身につけるなど、健康意識の向上に努めます。体力向上のために、保健体育の準備運動を継続して取り組みます。	学校保健委員会では、歯をテーマに校医や保健会、PTAと連携し、専門的かつ建設的な話し合いをしました。保健美化委員が積極的に発表準備に取り組み、健康意識の向上に繋がりました。保健体育科では、けが防止・体力向上のため準備運動を丁寧に行いました。	B
児童生徒指導	校内の指導基準を統一するため研修を行い、またSNSや発達障害などをテーマに研修を積み重ねていきます。教育相談を年間計画に設定するだけでなく、日常的に生徒との会話を増やし、関係づくりを進めていくことで、生徒が抱える諸問題の予防・早期発見に努めます。	生活の共通理解・生徒指導理解・発達障害と生活指導の職員研修を通して、職員の意識向上と共通理解ができました。学年間の連絡連携をより密に取っていく事に努めます。教育相談週間や日常生活で生徒との関係を深め、さらに寄り添った指導に努めていきます。	B
特別支援教育	学習相談会を定期的開催することで、学習の遅れやつまづきを感じている生徒への支援体制や、取り出しの授業を行う特別支援教室を開設し職員体制を整えます。また、取り出し授業や保健相談室における支援、個別支援級との交流など、生徒一人ひとりの実態に応じた指導計画・支援計画を策定し、別室登校を希望する生徒に特別支援教室を設け支援を行います。	学習相談会を開催し学習の遅れを感じている生徒への支援体制や、取り出しの授業を行う特別支援教室を開設し職員体制を整えました。生徒一人ひとりの実態に応じた指導計画・支援計画を策定し、別室登校を希望する生徒に特別支援教室を設け支援を行いました。	B
学びの場の連携	小中一貫ブロックにおいて、目指す子どもの姿や育む力を共有し、前の段階での教育が次の段階で生かされるよう、教育課程等の円滑な接続を図ります。また、キャリアパスポートについては、手探りながらも発達段階を意識し実践しました。	感染症対策により、小中の連携事業が実施できず、目指す子どもの姿や育む力の共有を基に目標とした教育課程の円滑な接続は実践が難しくなりましたが、キャリアパスポートについては、手探りながらも発達段階を意識し実践しました。	C
安全管理	避難訓練などを通して、災害時の安全確保のために、自らが考え、行動できる力を育みます。防災教室を実施することで、自然災害に対する理解を深め、起こりうる危険を予測し、災害に備える力を育みます。	避難訓練では、火災を想定し自らの安全確保しながら素早く避難できました。防災教室では、風水害について学び自然災害への理解を深めました。総合防災訓練では、大規模地震を想定した引き取りについて、ワークシートを利用してイメージすることができました。	B
地域連携	感染症対策により、地域行事への参加や警察と連携した各種防止教室、運営委員会等の会合を行うことがほとんどできなくなりましたが、書面による委員会開催や、学校便りを通して、地域の関係諸機関の取組や学校の取組を集約して情報共有することができました。	感染症対策により、生徒が地域に参加することは困難でしたが、学校運営協議会を立ち上げ、今後生徒と地域の方が協働できるボランティア活動の企画を考案したり、学校課題解決に向けた、地域や関係諸機関との連携の方法を検討したりすることができました。	C
いじめへの対応	引き続き、いじめの早期発見・未然防止のために、職員の見守り体制の整備、生活アンケートや傾聴と共感の姿勢に基づく教育相談の充実を図ります。隔週で実施するいじめ防止対策委員会において、情報交換や指導方針の検討を行い、いじめに対し組織的に対応します。	職員の見守り体制、生活アンケートの充実を通して、いじめの未然防止に向けた生徒の心に寄り添った教育相談を行いました。またいじめ防止対策委員会では、多角的な立場から検討することでいじめの深刻化を防ぎ、チームとしての対応をすることができました。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	教職員が各自のステージごとに人材育成を様々な業務において意識し、若手にも具体的に伝えることで資質・能力のレベルアップを図ります。学校地域コーディネーターとの連携を通して地域力を学校へ取り入れたり、またICT化を進めたりすることで、より効率的な業務の見直しを行い、学校の働き方改革を推進します。	主幹教諭を中心に、若手職員へ助言をしながら共に業務にあたるなど、人材育成を推進することができました。生徒の最終下校時刻の見直しや、地域コーディネーターとの連携により地域ボランティアを活用して校内環境の美化を進めたりするなど、働き方改革を進めることができました。	B
ブロック内評価後の気付き	・今年度は感染症対策により多くの取組や行事が中止になりました。次年度の活動計画・カリマネ会議については、メールや電話にて、教務主任間で調整を行いました。 ・多くの活動が行えない中、改めてカリキュラム・マネジメントの重要性を感じました。感染症対策を施しながらも、それぞれの学校がこれまで作成したカリキュラムを基に教育活動を行うことが重要で、今後も9年間で育てたい児童生徒の資質・能力をベースとした教育活動を大切にしていきたいと思ひます。	今年度も感染症対策により多くの取組や行事が中止になりました。次年度の活動計画については、メールや電話にて、教務主任間で調整を行いました。小中交流事業の多くが中止されることで児童が中学校生活について知る機会が少なく、いわゆる「中1ギャップ」が大きくなり懸念されるところです。新入生が安心して中学校での生活を送れるようより細やかな配慮が必要であると感ずます。「9年間で育てたい児童生徒の資質・能力」を更に意識し、各教科・領域における具体的な育成の場面や児童生徒の姿を、次年度以降小中と共有していきたいと思ひます。	ブロック内評価後の気付き
学校関係者評価	・地域連携については、学校家庭地域連携事業実行委員会などにより多くの教職員が参加することにより、さらなる連携が図れるのではないのでしょうか。また、中学生が地域行事に参加することによって地域は元気をもたらしているの、さらなる連携を図ってまいります。 ・生徒を取り巻く環境が変化する中で、ゲームや動画再生サイトなどに依存してしまうケースが多くなっており、学力の低下に影響しているのではないのでしょうか。 ・特別支援教育については、現状できる範囲で持続可能な取組をしてもらいたいと思ひます。	6月に学校運営協議会が発足しました。2月の協議会では学校の現状について、書面にてお伝えしました。	学校関係者評価
中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて歩みだしました。各分野で設定した具体的取組に対し、おおむね目標達成することができました。今年度の取組をさらに充実できるような努力していきます。 ・授業力向上については、アクティブラーニングやユニバーサルデザインを推進し、「分かる授業」を全職員で目指しました。生徒を取り巻く環境をふまえ、さらに学力向上に向けた取り組みが必要です。 ・地域連携では、地域の方から高い評価をいただきました。今後も引き続き継続するとともに、職員の	感染症対策により、生徒の学校での取組を地域や家庭が知る機会が大幅に縮小され、学校として生徒・保護者や地域により深く寄り添った対応が求められる1年となりました。教育課程の運営においては、新しい学習観・評価観を研修等で共有し、実践に結びつけました。今後も実践の見直し、授業力が向上するための不断の努力が求められます。また、ICT機器を活用した授業への取り組みも徐々に進んでいます。今後は本来の目的である各学習活動の目標達成のためにICTをどう有効活用していくかなど、各職員のICT活用能力向上と同時に指導方法の見直しも必要となります。	中期取組目標振り返り